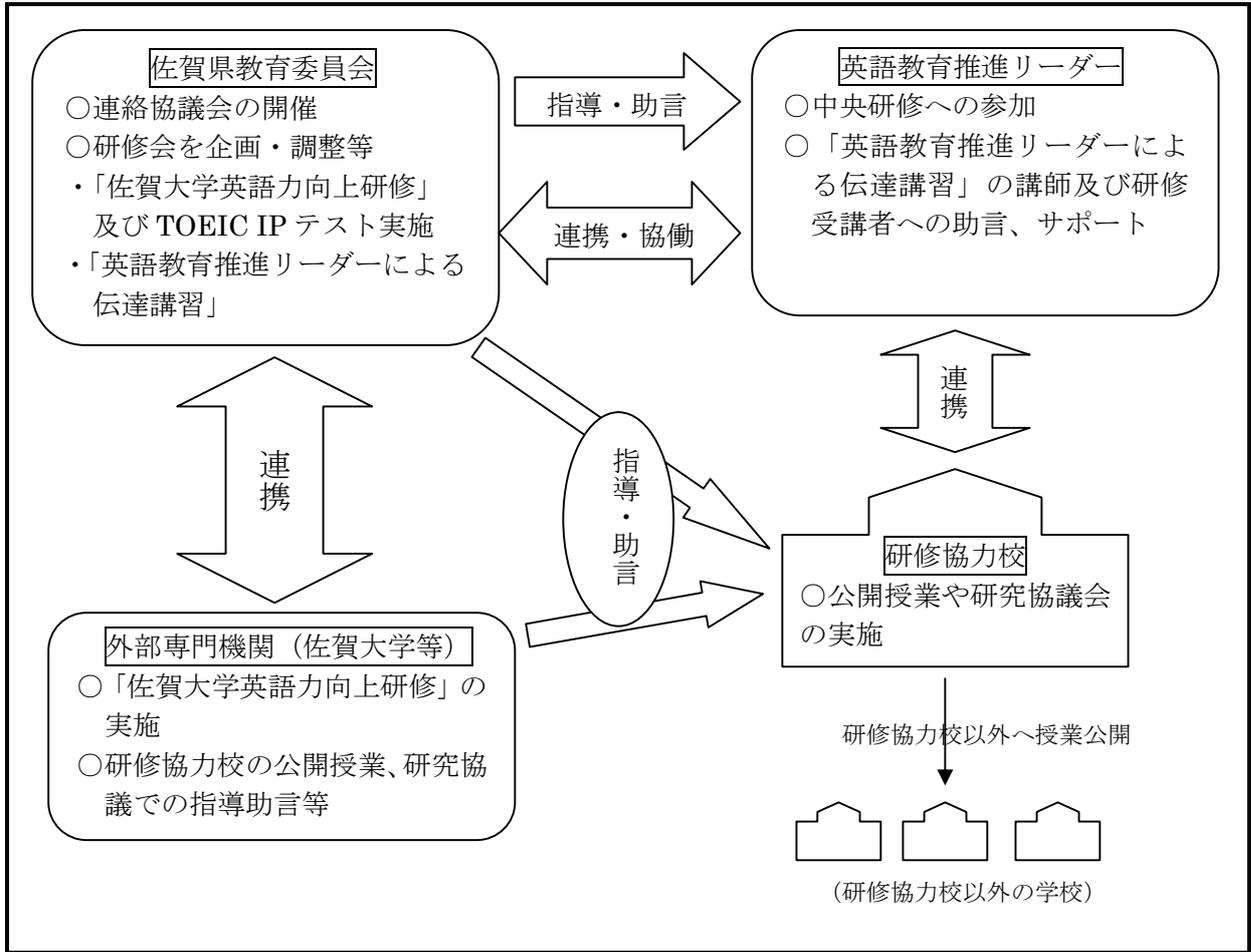


# 佐賀県英語教育改善プラン

1. 実施内容

(1) 研修体制の概要



(2) 英語教育の状況を踏まえた目標管理

【佐賀県の英語教育の状況・課題及び目標値】

「平成27年度英語教育実施状況調査」結果を過去の数値と比較すると、高等学校においては全体的にやや下降傾向にあり、特に教員の英語使用状況については設定した目標と大きな隔たりが見られた。一方、中学校においては全体的に上昇傾向にあり、指標内容の目標値を超えるものも多く見られた。ただし、教員の英語力及び学習到達目標の設定については課題があり、さらなる改善の必要性がある。小学校については相応の英語力を有する教員が不足しており、英語力及び指導力向上が急がれる。

(高等学校 - 目標管理 ①～④)

No.	指標内容	H25	H26	H27		H28	H29
		達成値	達成値	目標値	達成値	目標値	目標値
①	求められる英語力を有する英語担当教員の割合	55%	64%	<b>70%</b>	66%	<b>80%</b>	<b>85%</b>
②	求められる英語力を有する生徒の割合	30%	32%	<b>35%</b>	31%	<b>40%</b>	<b>50%</b>
③	学習到達目標の整備状況	設定	100%	100%	<b>100%</b>	100%	<b>100%</b>
		公表	42%	24%	<b>60%</b>	60%	<b>80%</b>
		達成状況の把握	76%	58%	<b>80%</b>	55%	<b>90%</b>
④	生徒の授業における英語による言語活動時間の割合	36%	44%	<b>50%</b>	47%	<b>60%</b>	<b>70%</b>

## (高等学校 - 目標管理 ⑤～⑧)

No.	指標内容	H25	H26	H27		H28	H29	
		達成値	達成値	目標値	達成値	目標値	目標値	
⑤	パフォーマンステストの 実施状況 スピーキングテスト(回)	コミュ英Ⅰ		1	1.6	2	2	
		コミュ英Ⅱ		1	1.6	2	2	
		コミュ英Ⅲ		1	0.9	2	2	
		英語表現Ⅰ		1	1.2	2	2	
		英語表現Ⅱ		1	1.1	2	2	
	パフォーマンステストの 実施状況 ライティングテスト(回)	コミュ英Ⅰ			1	1.2	2	2
		コミュ英Ⅱ			1	1	2	2
		コミュ英Ⅲ			1	0.8	2	2
		英語表現Ⅰ			1	2.2	3	3
		英語表現Ⅱ			1	2.9	3	3
⑥	英語担当教員の授業における英語使用状況	67%		75%	51%	80%	85%	
⑧	英語担当教員に対する研修実施回数			3	6	6	6	
	研修受講者数			80	170	290	290	

## (中学校 - 目標管理 ①～⑧)

No.	指標内容	H25	H26	H27		H28	H29	
		達成値	達成値	目標値	達成値	目標値	目標値	
①	求められる英語力を有する英語担当教員の割合	26%	26%	30%	30%	40%	50%	
②	求められる英語力を有する生徒の割合	28%	30%	35%	32%	40%	50%	
③	学習到達目標の整備状況	設定	28%	37%	45%	48%	55%	70%
		公表	0.3%	0.8%	20%	11%	35%	40%
		達成状況の把握	18%	21%	30%	24%	45%	60%
④	生徒の授業における英語による言語活動時間の割合	56%	51%	60%	65%	70%	80%	
⑤	パフォーマンステストの実施状況スピーキングテスト(回)			2	2.6	3	3	
	パフォーマンステストの実施状況ライティングテスト(回)			2	2.7	3	3	
⑥	英語担当教員の授業における英語使用状況	46%		50%	55%	60%	70%	
⑧	英語担当教員に対する研修実施回数			3	6	6	6	
	研修受講者数			190	215	455	375	

## (小学校 - 目標管理 ⑦～⑧)

No.	指標内容	H25	H26	H27		H28	H29
		達成値	達成値	目標値	達成値	目標値	目標値
⑦	相応の英語力を有する小学校教員の割合						3.0%
⑧	小学校教員に対する研修実施回数			3	5	5	5
	研修受講者数			190	210	285	210

## 【目標達成のための手立てについて】

「(様式10)目標管理書」に掲げた目標値を達成するために、佐賀県教育委員会では次のような取組を行う。

- (1) 外部専門機関(佐賀大学)と連携して、県内小学校教員、中高英語教員を対象に研修を行い、その英語力を高める。研修受講者のうち、中高英語教員についてはTOEIC IPテストの受験機会を与えるなどし、指標内容①の目標達成を目指す。
- (2) 英語教育推進リーダーによる伝達講習会等を行い、英語教育推進リーダーが中央研修で受講した内容や自ら実践したことを小学校中核教員、中高英語教員、外国語指導助手に伝達す

る機会を設ける。これにより、指標内容②～⑥の目標達成を目指す。

- (3) 「(様式10) 目標管理書」の指標内容及び「平成27年度英語教育実施状況調査」の設問内容に準じて、各市町教育委員会に対して目標設定を促す。この中で、小学校教員が外部検定試験を受験するよう促し、指標内容⑦の増加を目指す。また、県立高等学校に対しては、同様の目標設定を義務づけるとともに目標達成するよう学校訪問等を通じて指導を行う。

#### 【事業の内容及び実施方法】

上記(1)の研修を「佐賀大学英語力向上研修」とし、佐賀大学と佐賀県教育委員会が連携しながら研修内容や日程を設定する。また、上記(2)の研修を「英語教育推進リーダーによる伝達講習」とし、平成27年度中央研修を受講した英語教育推進リーダーがその講師を務める。佐賀県教育委員会と英語教育推進リーダーは研修を企画・実施するだけでなく、研修後に研修受講者が学校において実践したことに対して助言等を行う。

また、原則として英語教育推進リーダーが所属する学校のうち、小中高1校ずつを研修協力校に指定し、授業指導と学習評価の改善等に係る研究を行う。その際、佐賀大学を中心に年に複数回指導助言を仰ぐ機会を設けるなどし、公開授業等を通して県内全域において研修成果の普及を図る。

これらの取組により、教員の英語力及び指導力向上を図るとともに、「目標管理書」に掲げた平成29年までの目標値達成を目指す。

### (3) 研修の体系と内容の具体

#### 【研修の2本柱】 A「佐賀大学英語力向上研修」 B「英語教育推進リーダーによる伝達講習」

研修Aは教員の英語力そのものを高める、研修Bは授業改善に直接つながるものとし、主にこの2つの研修を通して、県全体の英語教育の充実を図る。平成29年度までこの2本柱で研修を実施するが、各研修受講者にその都度アンケートを実施するなどして研修評価をし、次年度への改善につなげるものとする。

なお、研修ABともに、事前に関係者と綿密な打合せを定期的に行い、研修受講者にとって有意義な研修となるよう計画する。

#### (研修Aの対象者及び実施予定回数・受講予定者数)

- ①小学校教員 7月～9月の中で2回(30名)
- ②中学校英語科教員 7月～9月の中で2回(約140名)
- ③高校英語科教員 7月～9月の中で2回(約60名)

※②③については、「求められる英語力」を必要とされる教員を対象とする。

#### (研修Aの目的及び内容)

- ・基礎的な英語によるコミュニケーション能力を有し、自信を持って小学校外国語活動及び英語の授業に臨むことのできる小学校教員を養成する。具体的には、教授法、音声学、教室英語など外国語活動に必要な技能を高める実践的なプログラムとする。
- ・生徒の確かな英語力を育成するために必要な高い英語力と指導力を備えた中学校・高校英語科教員を養成する。具体的には、4技能を高める指導法やディベート・ディスカッション指導法、TOEIC IPテスト対策講座などをプログラムに組み込む。なお、佐賀大学での研修を受講した中高英語科教員(約200名)は、11月を目途にTOEIC IPテストを受験し、自らの英語力を確認するものとする。

#### (研修Bの対象者及び実施予定回数・受講予定者数)

- ①小学校教員・講師 7月～8月の中で3回（75名）  
 ②中学校英語科教員・講師 7月～8月の中で3回（50名）  
 ③高校英語科教員・講師 7月～8月の中で3回（50名）

（研修Bの具体的内容）

- ・研修前の県の取組として、参加者に研修のねらいを十分に周知する。また、参加者がフィードバックや支援を受けながら授業実践し、その成果を校内研修等で伝達しやすい体制を整えるため、管理職にもカスケード（伝播）研修について周知する。
- ・英語教育推進リーダーは、中央研修で受講した内容や所属校で実践したことなどを小学校中核教員、中高英語科教員、外国語指導助手に伝達する。
- ・県は、研修後、一過性の研修で終わらないように、継続して指導法の工夫改善に取り組むよう伝える。具体的には、各セッションの指導法を各単元や1コマの授業の中に、どのように取り入れ、セッションと教材双方の特性を生かしながら、計画的に4技能を育成するための指導や評価について研究を実践するよう求める。研修のまとめとして、授業の1コマを録画したDVDと共に、児童生徒の変容や校内研修の在り方について報告書にまとめ、提出してもらう。
- ・小中高の研修協力校は、児童生徒の思考力・判断力を育成しながら英語によるコミュニケーション能力を身に付けさせるため、授業指導と学習評価の改善等に係る研究を行う。その際、外部専門機関（佐賀大学等）に複数回指導助言を仰ぐ機会を設け、公開授業等を通して県内全域において研修成果の普及を図る。

（4）年間事業計画

月	都道府県等の取組	外部専門機関等
4月	第1回研修協力校連絡協議会（半日）	
5月		研修協力校への訪問及び指導助言
6月		
7月	英語教育推進リーダーによる伝達講習（3日間）	佐賀大学英语力向上研修（2日間） ・大学講師による講義、演習等
8月		
9月	研修協力校による公開授業の実施（半日） ※9月～12月で実施	研修協力校への訪問及び指導助言
10月		
11月	外部検定試験（TOEIC IPテスト）の実施（中高英語科教員対象）	
12月	第2回研修協力校連絡協議会（半日）	
1月		
2月		
3月		

【その他の取組】

7～9月に外部専門機関（佐賀大学）での研修を受講した中高英語科教員は、11月上旬にTOEIC IPテストを受験する。

